

# 近世

東アジア藝術文化研究所シンポジウム

東アジアにおける

# 芸術と生活

司会 高階秀爾

出演者 朴彦坤  
韓正熙  
赤坂憲雄  
張大石  
関剣平  
小川後楽  
中村利則  
八幡はるみ  
芳賀徹

京都造形芸術大学 春秋座

2008年 3月1日(土) 10:00~17:30

—開場 9:30—

入場無料 定員600名(事前申込制)

Art and Life in East Asia in Early Modern Times: Japan, Korea, China

## 東アジア藝術文化研究所 (京都造形芸術大学・弘益大 東北芸術工科大学)

### プログラム

第一部 十時~十二時三十分

開会の辞 高階秀爾(京都造形芸術大学大学院長・比較藝術学研究センター所長)

基調講演Ⅰ 朴彦坤(弘益大 建築学教授・東アジア藝術文化研究所所長)

「東アジア寺刹戒壇の比較研究—僧侶の受戒生活と戒壇形式—」

韓国・中国・日本の戒壇伽藍の形式と僧侶の受戒生活の特徴を比較する。

基調講演Ⅱ 赤坂憲雄(東北芸術工科大学大学院長・東北文化研究センター所長)

「柳宗悦と朝鮮」

柳宗悦の「民藝運動」と朝鮮の日用雑器との出会いをつうじて、新しい美意識を東アジアの芸術と生活の中に位置づける。

基調講演Ⅲ 小川後楽(京都造形芸術大学芸術学部教授・比較藝術学研究センター研究員)

「煎茶の視座からの芸術と生活」

毎日の生活に深く浸透している煎茶の受容とその展開をたどる。

昼食 十二時三十分~十四時

第二部 十四時~十七時三十分

パネル講演

I 韓 正熙(弘益大 美術学教授)

「絵画と陶磁を通してみた近世東アジアの美術と生活の関係」

II 張 大石(東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター准教授)

「染付けのコバルトブルーが語る東アジアの芸術文化」

III 関 剣平(浙江樹人大学人文学院茶文化専攻主任副教授)

IV 中村利則(京都造形芸術大学歴史遺産学教授・比較藝術学研究センター研究員)

「利休茶室考—その源流について—」

休憩

パネル討論 司会：高階秀爾

閉会の辞 芳賀徹(京都造形芸術大学名誉学長)

## シンポジウム

人間の生活は、様々な衣食住の形態を取りながら、それと関わる芸術を生み出してきた。さらに、そうして生み出された芸術は、地域や時代によって変遷していく。例えば、現在西洋諸国において、日本を代表する文化と見なされる茶道は、元々中国に起源を遡り、日本では室町時代から隆盛し、利休によって大成された。茶の湯は、道具や茶室から、儀礼や作法まで包括する総合芸術を形成したが、他方で日常生活にも浸透し、それは今日まで続いている。韓国の弘益大 東北造形芸術大学、東北芸術工科大学の三大学共同研究機関である東アジア藝術文化研究所は、とりわけ相互に密接な関係を持つ東アジア文化圏における、芸術文化の交流と変容の歴史を多角的に探るために設立された。今回の第二回東アジア藝術文化研究所シンポジウムは、「生活と芸術」をテーマとする総合的研究(文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業)の一環として、近世の日本・韓国・中国における芸術と生活の多彩な現われの共通点と相違点を明らかにし、そこから現代まで続く文化の多様性の意義をも論じようとするものである。三大学ならびに中国からの第一線の研究者によって展開される議論は、東アジア文化圏のダイナミズムを浮かび上がらせるだろう。

## 近世東アジアにおける芸術と生活

—日本・韓国・中国—

Art and Life in East Asia in Early Modern Times: Japan, Korea, China

お問い合わせ 比較藝術学研究センター

聴講を希望される方は、電話、ファックス、E-mail、いずれかの方法でお申し込みください(ファックスの場合は、定員600名を超過しない限り、特に返信いたしませんので、ご了承ください)。

電話：075-791-9167 ファックス：075-791-9181  
E-mail: irccas-info@kuad.kyoto-art.ac.jp

京都造形芸術大学 春秋座

606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116  
telephone: 075 791 9122  
facsimile: 075 791 9127

市バス5系統「上終町京都造形芸術大学前」下車すぐ  
叡山電鉄叡山線「茶山駅」より徒歩10分  
駐車場・駐輪場はございませんので、公共の交通機関をご利用ください。





## プログラム

第一部 10:00～12:30

開会の辞 高階秀爾 (京都造形芸術大学大学院長・比較芸術学研究センター所長)

基調講演Ⅰ 朴彦坤 (弘益大専校建築学科教授・東アジア芸術文化研究所所長)  
「東アジア寺刹戒壇の比較研究—僧侶の受戒生活と戒壇形式—」  
韓国・中国・日本の戒壇伽藍の形式と僧侶の受戒生活の特徴を比較する。



朴彦坤 (パク・オンゴン)  
1943年生まれ。弘益大専校建築学科教授。早稲田大学工学博士。弘益大専校副総長、弘益大専校工科大学長歴任。弘益大専校東ASIA芸術文化研究所所長、文化財廳建築文化財委員長、大韓建築學會參與理事。『韓国建築史講論』、『韓国の樓』、『韓国の亭子』他著作多数。

基調講演Ⅱ 赤坂憲雄 (東北芸術工科大学大学院長・東北文化研究センター所長)

「柳宗悦と朝鮮」  
柳宗悦の「民藝運動」と朝鮮の日用雑器との出会いをつうじて、  
新しい美意識を東アジアの芸術と生活の中に位置づける。



赤坂憲雄 (あかさか・のりお)  
1953年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。東北芸術工科大学大学院長、同東北文化研究センター所長、福島県立博物館館長。専攻は民族学、日本思想史。東北学という名の知の運動を押し進め、「いくつもの日本」から「いくつものアジア」へと開かれてゆく、新たな日本文化像の構築をめざしている。著書に、『異人論序説』、『排除の現象学』、『王と天皇』、『遠野／物語考』、『境界の発生』、『子守り唄の誕生』、『柳田国男の発生』、『東北学へ』、『山野河海まんだら』、『東西／南北考』、『一国民俗学を越えて』、『岡本太郎の見た日本』など。

基調講演Ⅲ 小川後楽 (京都造形芸術大学芸術学部教授・比較芸術学研究センター研究員)

「煎茶の視座からの芸術と生活」  
毎日の生活に深く浸透している煎茶の受容とその展開をたどる。



小川後楽 (おがわ・こうらく)  
1940年京都生まれ。1963年立命館大学文学部日本史学科卒業。1973年小川流煎茶家元六代目小川後楽を継ぐ。1991年4月、京都造形芸術大学、教授として現在に至る。1979年、第一回目以後も数多く訪中、日中の喫茶史をテーマに中国各地の名茶及び、茶の習俗・歴史等を現地調査。中国国際茶文化学会名誉理事。主な著書に、『煎茶の世界』、『茶の文化史』、『文人への照射』、『煎茶への招待』など。

作品説明 八幡はるみ (京都造形芸術大学美術工芸学科教授)



八幡はるみ (やはた・はるみ)  
京都造形芸術大学美術工芸学科教授。1982年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。1997年京都芸術新人賞受賞。代表的な展覧会として、「染・清流展」(京都市美術館)に1992年より2007年まで連続出品、2001年「現代の布—染と織の造形思考」(東京国立近代美術館)、2002年「現代の工芸—素材と造形思考」(ベトロナスギャラリー/マレーシア、ナショナルギャラリー/インドネシア)、2003年から2007年までの隔年個展(イムラアートギャラリー/京都)での「COLORS」「DREAMS」「HEAVEN」などがある。

昼食 12:30～14:00

第二部 14:00～17:30

パネル講演

Ⅰ 韓正熙 (弘益大専校美術大学芸術学科教授)  
「絵画と陶磁を通して見た近世東アジアの美術と生活の関係」



韓正熙 (ハン・ジョンヒ)  
弘益大専校美術大学芸術学科教授。米国カンザス大学大学院美術史学科において中国絵画史で博士号を取得。弘益大専校芸術学科学科長、同大学院美術史学科長、韓国美術史学会会長を歴任。2001年から2002年まで米国プリンストン大学客員教授。著書に、『中国画鑑賞法』(大円社、1994年)、『韓国と中国の絵画』(学古齋、1999年)、『東洋美術史』(共著、美進社、2007年)などがある。

Ⅱ 張大石 (東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター准教授)  
「染付けのコバルトブルーが語る東アジアの芸術文化」



張大石 (チャン・テソク)  
1966年韓国光州生まれ。1998年東北芸術工科大学卒業。2003年東京芸術大学美術研究科文化財保存学博士課程修了。保存科学及び美術工芸材料科学を専門とし、芸術文化財の保存と活用手法の研究を行う。一方で、文化史論を融合した芸術文化財の本来的な価値探求に平行して取り組む。「東アジア産青花白磁の釉層における色と組成」の他論文多数。

Ⅲ 関剣平 (浙江樹人大学人文学院茶文化専攻主任副教授)  
「遠代の喫茶生活—宣化遼墓壁画から—」



関剣平 (カン・ケンペイ)  
大学卒業後1985年に上海師範大学古籍整理研究所助手として生活文化の研究を始め、1995年日本に留学し、2000年「中国茶史研究—陸羽まで—」で立命館大学文学博士号取得。国立民族博物館、南開大学での研究職を経て、現在浙江樹人大学人文学院茶文化専攻主任副教授。著書『茶と中国文化』(人民出版社、2001年)。

Ⅳ 中村利則 (京都造形芸術大学歴史遺産学科教授・比較芸術学研究センター研究員)  
「利休茶室考—その源流について—」



中村利則 (なかむら・としのり)  
1946年金沢市生まれ。名古屋工業大学建築学科卒業。京都工芸繊維大学大学院修士課程修了。京都造形芸術大学教授。主な編著書に『町屋の茶室』、『茶道学大系第六巻 茶室・露地』、『冷泉家の歴史』、『史料に見る茶の湯の歴史』などがある。

休憩

パネル討論 司会：高階秀爾

閉会の辞 芳賀徹 (京都造形芸術大学名誉学長)

近世東アジアにおける

芸術と生活

—日本・韓国・中国—

# Art and Life in East Asia in Early Modern Times: Japan, Korea, China



高階秀爾 (たかしな・しゅうじ)  
1932年東京生まれ。東京大学卒業、同大学院満期退学。東京大学教授、国立西洋美術館館長を経て、大原美術館館長、京都造形芸術大学大学院長、同比較芸術学研究センター所長。パリ第一大学名誉博士。『ルネッサンスの光と闇』、『近代絵画史』他著作多数。芸術選奨文部大臣賞、フランス芸術文藝勲章コマンドール章、紫綬褒章、レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、イタリア功労勲章グランデ・ウフィチアーレ章、日本藝術院賞恩賜賞、文化功労者。



芳賀徹 (はが・とおる)  
1931年山形市生まれ。東京大学卒業、同大学院修了。東京大学教授、プリンストン大学客員研究員、国際日本文化研究センター教授、京都造形芸術大学学長を経て、岡崎市美術館館長、京都造形芸術大学名誉学長。『詩歌の森へ』、『渡辺崋山・優しい旅びと』、『みだれ髪系の系譜』、『平賀源内』、『絵画の領分』他著作多数。サントリー学藝賞、大佛次郎賞、フランス政府バルム・アカデミック・オフィシエ勲章、紫綬褒章、明治村賞、京都新聞文化学術賞。